

「豊かで快適な環境の保全と創造について」

富山らしい地域主体の環境づくりを

16.11.

本稿では、環境づくりについて、より充実した人間生活には環境が如何にあるべきか、それとともに人間側が何をもって環境に働きかけていくべきか、について述べる。

まずは視点について次のようにしたい。第一は、環境について「環境は人を育て、人は環境をつくる」といわれているように環境は人間と一体のものであると捉える。第二には、例えば心理保全の問題なら森林環境だけといったように問題に合わせて環境を設置するのではなく、森林環境に加えて森林社会環境などのように、環境を広く捉える。

次に、環境づくりのアプローチについて。地域とイメージ的に融合させる。最近流行の里山経済圏の設定や地域単位のローカル経済圏の設定をいう。私は、もっと考えを進めて、人間と地域の一体化として、自然、社会、人間、考え、意識、歴史などを有機的につながらせたい。

そんな方向性のもとで富山においては、富山という大自然の環境、ホットな県民性の意識環境、富山らしい産業の生産環境などについてアプローチするのは当然であるが、これらに加えて環境の総合化を地域にくわえ家庭を入れたい。そしてそこに、学校教育、地域教育、家庭教育といった教育をいれたい。

私は、身近にそなわっている環境に大いに着目して教育をしていけばいいと考えて、自然の愛好と感性の向上、そんな富山県民どうしのごくごくありふれたコミュニケーションの始まりとしての挨拶、富山の歴史風土環境を受け継ぐ風土の愛好、などに着目している。

こうした取り組みで、しだいに街の美化や人間関係の密実へとつながり、それこそ豊かで快適な生活を満喫できるものと思っている。すなわち、種々環境から受ける当たり前のことを当たり前のように受け止め、当たり前の行為をもって、街から笑い声が聞こえる環境、そんな環境づくりを目指したいものである。